

# 現代版画の展開

2017年4月8日（土）～6月25日（日）

和歌山県立近代美術館

THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA

## 【はじめに】

版画の特質は何でしょう？

まず第一に挙げられるのは、間接性です。版を介し、ある面から別の面にイメージを転移させるという版画固有のメカニズムは、複数の工程を経ることによってしか出来ない表現思考を生み出します。また第二に挙げられるのは、複数性でしょう。オリジナルとコピー（原型と複製）という価値観から離れ、複数のオリジナルの制作が可能となります。このことは作者と鑑賞者の関係にも影響します。

1950年代以降、駒井哲郎、棟方志功、浜口陽三らの版画作品がサンパウロ・ビエンナーレなど海外の美術展で相次いで入賞し、版画は現代美術の重要なジャンルとして日本でもあらたに注目されるようになりました。1957年には東京国際版画ビエンナーレ展が始まり、戦後の日本でいち早く国際的な美術選抜展が開催されます。1960年代には大衆消費社会を背景にポップ・アートが美術シーンを席卷し、引用・複製されたイメージの表現に版画が多く使われました。そして1970年代になると、コンセプチュアル・アートなど先鋭的な現代美術の作家たちが版画の特質を積極的に表現手法に取り入れます。またその頃から現代版画を専門とするギャラリーやコレクターが増え、版画工房が設立され、複数の版画雑誌が創刊されるなど、版画ブームと言われる社会現象まで起きました。

この展覧会では、そうした1950年代から70年代への展開を作品により回顧しつつ、当館が1985年から5回にわたって開催した和歌山版画ビエンナーレ展に入賞した国内作家の作品を見直します。和歌山版画ビエンナーレ展の特長は、版画の複数性にこだわらずモノタイプの応募を認めたことと、大きさを無制限としたことにより、従来の版画の概念を拡大させる方向に舵を切ったことだったといえるでしょう。

技術革新により、版画の概念がますます急速に変化していく現在、その現代性はどこに向かっていくのでしょうか。あらためて問い直す機会にしたいと思います。

## 【出品目録（展示順）】

### 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro (1891-1955)

- |   |                        |             |           |             |
|---|------------------------|-------------|-----------|-------------|
| 1 | フォルムNo.14 グロテスク (II) a | 1952 (昭和27) | マルチブロック、紙 | 45.8×35.2cm |
| 2 | ポエム No.14 秋            | 1950 (昭和25) | 木版、紙      | 34.8×24.2cm |

### 浜口 陽三 HAMAGUCHI Yozo (1909-2000)

- |   |          |             |            |             |
|---|----------|-------------|------------|-------------|
| 3 | スペイン風油入れ | 1954 (昭和29) | メゾチント、紙    | 28.8×28.5cm |
| 4 | パリの屋根    | 1956 (昭和31) | カラーメゾチント、紙 | 18.5×18.5cm |

### 長谷川 潔 HASEGAWA Kiyoshi (1891-1980)

- |   |                      |             |         |             |
|---|----------------------|-------------|---------|-------------|
| 5 | 静物画、仮装したる狐（フィンランド童話） | 1965 (昭和40) | メゾチント、紙 | 36.0×26.7cm |
|---|----------------------|-------------|---------|-------------|

### 駒井 哲郎 KOMAI Tetsuro (1920-1976)

- |   |        |             |                        |             |     |
|---|--------|-------------|------------------------|-------------|-----|
| 6 | 東の間の幻影 | 1951 (昭和26) | アクアチント・エッチング・ドライポイント、紙 | 17.4×29.4cm | 個人蔵 |
|---|--------|-------------|------------------------|-------------|-----|

### 浜田 知明 HAMADA Chimei (1917-)

- |   |          |             |                |             |
|---|----------|-------------|----------------|-------------|
| 7 | 初年兵哀歌 歩哨 | 1954 (昭和29) | エッチング・アクアチント、紙 | 23.3×15.7cm |
|---|----------|-------------|----------------|-------------|

### 瑛 九 EI Q (1911-1960)

- |   |                       |             |         |             |     |
|---|-----------------------|-------------|---------|-------------|-----|
| 8 | エッチング集『小さい悪魔』より 背中合わせ | 1952 (昭和27) | エッチング、紙 | 14.4×12.9cm | 個人蔵 |
| 9 | 旅人                    | 1957 (昭和32) | リトグラフ、紙 | 37.1×52.0cm |     |

### 泉 茂 IZUMI Shigeru (1922-1995)

- |    |         |             |                |             |      |
|----|---------|-------------|----------------|-------------|------|
| 10 | 深夜のセロ弾き | 1954 (昭和29) | エッチング・アクアチント、紙 | 18.3×10.6cm | 作者寄贈 |
|----|---------|-------------|----------------|-------------|------|

11	インディアン	1956 (昭和31)	リトグラフ、紙	48.0×41.0cm	個人蔵
<b>海老原 喜之助 EBIHARA Kinosuke (1904-1970)</b>					
12	父と娘	1956 (昭和31)	リトグラフ、紙	55.0×40.0cm	
<b>脇田 和 WAKITA Kazu (1908-2005)</b>					
13	手品師	1957 (昭和32)	リトグラフ、紙	39.4×45.1cm	
<b>菅井 汲 SUGAI Kumi (1919-1996)</b>					
14	悪魔	1955 (昭和30)	リトグラフ、紙	53.5×38.5cm	
<b>村井 正誠 MURAI Masanari (1905-1999)</b>					
15	作品	1955 (昭和30)	リトグラフ、紙	53.3×38.0cm	
16	作品	1955 (昭和30)	リトグラフ、紙	53.1×37.5cm	
<b>吉田 政次 YOSHIDA Masaji (1917-1971)</b>					
17	憂愁の空 No.2	1957 (昭和32)	木版、紙	43.7×71.8cm	吉田敦子氏寄贈
<b>萩原 英雄 HAGIWARA Hideo (1913-2007)</b>					
18	石の花 (黒)	1960 (昭和35)	木版、紙	87.7×58.0cm	
19	石の花 (赤)	1960 (昭和35)	木版、紙	87.2×58.3cm	
20	石の花 (灰)	1960 (昭和35)	木版、紙	87.7×58.0cm	
<b>高橋 力雄 TAKAHASHI Rikio (1917-1998)</b>					
21	Flourish	1966 (昭和41)	木版・手彩、紙	78.8×79.0cm	奥田西杜子氏寄贈
<b>吹田 文明 FUKITA Fumiaki (1926-)</b>					
22	開かれた世界	1967 (昭和42)	木版、紙	60.2×90.0cm	堀内俊男氏寄贈
<b>加納 光於 KANO Mitsuo (1933-)</b>					
23	星・反芻学	1962 (昭和37)	インタリオ、紙	33.0×67.6cm	
24	ソルダード・ブルー	1964 (昭和39)	メタルプリント、紙	68.2×50.2cm	
<b>深沢 幸雄 FUKAZAWA Yukio (1924-2016)</b>					
25	洞窟	1966 (昭和41)	ディープエッチング他、紙	60.0×36.0cm	
<b>若山 八十氏 WAKAYAMA Yasouji (1903-1983)</b>					
26	鳥たち	1967(昭和42)	孔版、紙	23.2×20.0cm	森田睦氏寄贈
<b>福井 良之助 FUKUI Ryounosuke (1923-1986)</b>					
27	静物	制作年不詳	孔版、紙	21.6×40.7cm	
<b>清水 武次郎 SHIMIZU Takejiro (1915-1993)</b>					
28	作品	1964 (昭和39)	孔版、紙	34.1×47.6cm	
<b>横尾 忠則 YOKOO Tadanori (1936-)</b>					
29	第6回東京国際版画ビエンナーレ展	1968 (昭和43)	オフセット、紙	107.8×75.8cm	
30	海の男	1969 (昭和44)	シルクスクリーン、アクリル、紙	90.3×90.2cm	
<b>池田 満寿夫 IKEDA Masuo (1934-1997)</b>					
31	女・動物たち	1960 (昭和35)	ドライポイント・アクアチント、紙	24.1×18.0cm	
<b>吉原 英雄 YOSHIHARA Hideo (1931-2007)</b>					
32	彼女は空に	1968 (昭和43)	リトグラフ・銅版、紙	70.6×103.2cm	
<b>鬚嘯 Ay-O (1931-)</b>					
33	レインボー北斎 ポジションA	1970 (昭和45)	シルクスクリーン、紙	89.3×134.3cm	個人蔵
<b>船井 裕 FUNAI Yutaka (1932-2010)</b>					
34	TRAP	1968 (昭和43)	リトグラフ、紙	59.8×48.1cm	
35	FUGA No.1	1968 (昭和43)	リトグラフ、紙	61.1×49.7cm	
<b>黒崎 彰 KUROSAKI Akira (1937-)</b>					
36	闇のポジション	1970 (昭和45)	木版、紙	83.1×57.0cm	(6点)

<b>木村 光佑 KIMURA Kosuke (1936-)</b>				
37	OUT OF TIME - 26	1970 (昭和45)	リトグラフ、紙 シルクスクリーン、アクリル	77.8×53.8cm
<b>野田 哲也 NODA Tetsuya (1940-)</b>				
38	日記 1968年6月10日	1968 (昭和43)	木版・シルクスクリーン、紙	41.3×78.0cm
<b>高松 次郎 TAKAMATSU Jiro (1936-1998)</b>				
39	遠近法のベンチ	1967 (昭和42)	シルクスクリーン、紙	59.4×77.2cm
40	英語の単語	1970 (昭和45)	オフセットリトグラフ、紙	78.7×54.4cm
<b>吉田 克朗 YOSHIDA Katsuro (1943-1999)</b>				
41	No.11	1970 (昭和45)	シルクスクリーン、紙	70.2×89.5cm
<b>荒川 修作 ARAKAWA Shusaku (1936-2010)</b>				
42	意味の分裂	1970-71 (昭和45-46)	シルクスクリーン、紙	101.6×76.0cm
<b>井田 照一 IDA Shoichi (1941-2006)</b>				
43	Stone, Paper and Stone	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	65.5×50.5cm
<b>李 禹煥 LEE U-Fan (1936-)</b>				
44	関係項-A	1979 (昭和54)	木版、紙	59.8×80.8cm
45	関係項-B	1979 (昭和54)	木版、紙	60.0×80.8cm
<b>木村 秀樹 KIMURA Hideki (1948-)</b>				
46	Pencil 2-1	1974 (昭和49)	シルクスクリーン、紙	75.5×107.1cm ブリッジ寄贈
47	Pencil 2-2	1974 (昭和49)	シルクスクリーン、紙	75.6×107.1cm ブリッジ寄贈
48	Pencil 2-3	1974 (昭和49)	シルクスクリーン、紙	75.1×106.8cm
<b>山本 容子 YAMAMOTO Yoko (1952-)</b>				
49	Asparagus Guy	1977 (昭和52)	エッチング、紙	45.0×59.8cm ブリッジ寄贈
50	To the park	1978 (昭和53)	エッチング、紙	45.3×59.8cm ブリッジ寄贈
<b>田中 孝 TANAKA Takashi (1948-)</b>				
51	Tree	1977 (昭和52)	シルクスクリーン、紙	54.1×80.0cm ブリッジ寄贈
<b>安東 菜々 ANDO Nana (1948-)</b>				
52	Electric Wire 4	1977 (昭和52)	シルクスクリーン、紙	53.0×77.0cm ブリッジ寄贈
<b>斎藤 智 SAITO Satoshi (1936-2013)</b>				
53	Untitled 79-a	1979 (昭和54)	シルクスクリーン、紙	74.0×71.0cm
<b>森村 泰昌 MORIMURA Yasumasa (1951-)</b>				
54	だぶらかし 肖像A, B, C, D	1988 (昭和63)	写真	120.0×120.0cm
<b>中林 忠良 NAKABAYASHI Tadayoshi (1937-)</b>				
55	Transposition—転位—I	1978 (昭和53)	エッチング・アクアチント、紙	49.5×49.5cm
<b>両角 修 MOROZUMI Osamu (1948-)</b>				
56	No.13	1972 (昭和47)	木版、紙	91.6×56.1cm
<b>小作 青史 OZAKU Seishi (1936-)</b>				
57	枠組を抜けて	1981 (昭和56)	木版リトグラフ、紙	60.0×71.0cm
<b>山田 彊一 YAMADA Kyouichi (1938-)</b>				
58	Push (ボルトB)	1985 (昭和60)	シルクスクリーン、アルミニウム板	130.0×105.6cm 和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>長岡 國人 NAGAOKA Kunito (1940-)</b>				
59	Homage to 6 Japanese Nobel Prize Winners No.1	1986 (昭和61)	銅版、紙	49.2×39.0cm 和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>池田 良二 IKEDA Ryoji (1947-)</b>				
60	cape watershed (岬の分水嶺)	1988 (昭和63)	フォトエッチング他、紙	55.5×82.4cm 和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈

<b>森岡 完介 MORIOKA Kansuke (1941-)</b>			
61 Beethoven at the Beach, Message 86-11P	1986 (昭和61)	シルクスクリーン、紙 70.3×105.0cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>高原 洋一 TAKAHARA Yoichi (1944-)</b>			
62 GEOMETRIC NARCISSUS AX	1988 (昭和63)	シルクスクリーン、紙 95.0×141.8cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>木村 秀樹 KIMURA Hideki (1948-)</b>			
63 冬のライオン	1986 (昭和61)	シルクスクリーン、キャンバス 140.3×199.9cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>秋岡 美帆 AKIOKA Miho (1952-)</b>			
64 ゆれるかげ	1990 (平成2)	ネコプリント、紙 154.6×213.5cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>一原 有徳 ICHIHARA Arinori (1910-2010)</b>			
65 ZOP 84	1984 (昭和59)	モノタイプ、紙 160.2×120.0cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>園山 晴己 SONOYAMA Harumi (1950-)</b>			
66 d'encres - U	1986 (昭和61)	リトグラフ、紙 98.4×69.0cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>岸中 延年 KISHINAKA Nobutoshi (1954-)</b>			
67 Spring into View 90-13	1990 (平成2)	銅版・ドローイング、紙 160.2×160.4cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>小枝 繁昭 KOEDA Shigeaki (1953-)</b>			
68 Still Life on the Table #3	1990 (平成2)	シルクスクリーン・アクリル絵具、紙 179.3×117.8cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
69 風の時 アイリス	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
70 風の時 アネモネ	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
71 風の時 ガーベラ	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
72 風の時 椿	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
73 風の時 チューリップ	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
74 風の時 シベリア	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
75 風の時 牡丹	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
76 風の時 紫陽花	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
77 風の時 向日葵	2003 (平成15)	ラムダプリント、紙 100.0×100.0cm	個人蔵
<b>池垣 タダヒコ IKEGAKI Tadahiko (1955-)</b>			
78 カーペット掃除機「チチカカの女」	1996 (平成8)	銅、半田、インク 82.0×28.0×28.0cm	
79 untitled	1990 (平成2)	銅、半田、インク 110.0×130.0×30.0cm	
<b>小林 敬生 KOBAYASHI Keisei (1944-)</b>			
80 蘇生の刻 S63-12	1989 (平成元)	木口木版・コラージュ、紙 82.5×152.0cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>河内 成幸 KAWACHI Seiko (1948-)</b>			
81 '84 桂 (響き)	1984 (昭和59)	木版、紙 141.5×92.5cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>濱田 弘明 HAMADA Hiroaki (1960-)</b>			
82 Untitled '92-12	1992 (平成4)	シルクスクリーン・写真、キャンバス、紙 (4点) 180.0×225.0cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>飯塚 二郎 IITSUKA Jiro (1957-)</b>			
83 地下からの視線 920524	1992 (平成4)	FRP、砂、土、木 223.0×172.2×12.5cm	和歌山版画ビエンナーレ展実行委員会寄贈
<b>出原 司 IZUHARA Tsukasa (1953-)</b>			
84 南の海でゆっくり漂う	1988 (昭和63)	リトグラフ、紙 (154点) 392.0×916.5cm	個人蔵

## 参考出品

渡辺 和雄 WATANABE Kazuo (1956-)

「現代の版画」展ポスター 2017 (平成29) オフセット、紙 78.9×c54.2m 中和印刷紙器株式会社協力

### 【版画の技法】

**1 凸版：**版の凹凸の凸の部分にインクをつけ、紙などに刷り取る版の形式。もっともよく知られているのは木版。ほかにリノリウム版、紙版、実物版などがある。

- ・**板目木版：**板目に沿って切り出された版木を彫刻刀で彫る。繊維に沿ってぎつくりとした線を刻める。日本では江戸時代の浮世絵に見られるような独自に発達した技術がある。西洋では油性インクを使ってスプーンやプレス機で刷られるのに対し、日本の伝統的な木版は水性インクを使い「ばれん」でこすって摺る。
- ・**木口木版：**木の断面に沿って芯の部分を持ち出し、版木にする。目のつまった固い木の断面を鋼鉄製の道具を用い、緻密な鋭い線を刻む。

**2 凹版：**凹凸の凹の部分にインクをつけて刷り取る版の形式。版材は金属板や木などで、代表的なのは銅版。刷るには特別な印刷機（プレス機）が必要になる。刷り上がった線をルーペで見ると、インクが盛り上がっている。プレス機で高圧をかけるので、紙には版の形に凹み（プレートマーク）ができる。

**銅版：**彫刻刀でじかに版を削る直刻法と、酸との反応によって凹みをつくる腐蝕法がある。

- ・**ドライポイント：**金属板を針でひっかく。なめらかな線を引くのは困難で、力の入れ具合によってさまざまな厚さの金属のもりあがり（まくれ）ができる。
- ・**エングレーヴィング：**ビュランで金属面を削る。削った溝のふちにはまくれができるがその部分はスクレイパーを使って除去する。
- ・**メゾチント：**まず銅板一面にロッカーを用いて細条をひく。金属のまくれによりベルベットのような色面ができるのを、磨いたり押しつぶしたりして図柄を浮かび上がらせる。
- ・**エッチング：**腐蝕法の代表的な技法。銅の表面をアスファルト・蝟・松脂などを混ぜた防蝕剤で塗りつぶし、針を使ってその層を除きながら線を描く。硝酸液に浸すと防蝕剤がついていない線の部分が腐蝕されて凹部ができる
- ・**アクアチント：**防蝕剤として松脂粉をもちい、熱して金属板に溶着させる。粉のすきまにできた無数の穴が腐蝕されて凹部となる。濃淡は腐蝕の回数や時間の加減で作り出す。

**3 平版：**凹凸のない平らな版による形式。リトグラフのほか、オフセット印刷も平版の一種である。

- ・**リトグラフ：**版材は水をよく含む石灰石で、なめらかに磨いた石の上に油性の石版用クレヨンや石版用の溶剤で絵を描く。そこにアラビアゴムや硝酸を使って水と油の反発作用を化学的に作り出し、絵を描いた部分にだけ油性インクがつくようにして、プレス機で刷り取る。現代では亜鉛板（ジンク板）も使う。

**4 孔版：**版に孔をあけ、孔にインクを透過させて着彩する版形式。

- ・**謄写版：**蝟をひいた紙を原版とし、ヤスリや鉄筆などによって蝟の部分をはがし、繊維孔をつくる。できた原版を枠に固定して、紙を重ね、ローラーでインクを透過させる。
- ・**シルクスクリーン：**枠に貼った絹に、孔をあけた紙を付着させたり、じかに膠液を塗ったりして絹目をふさぐ。版を紙の上に重ねてその上からインクをスキージで刷り込む。写真撮影をしたフィルムと感光剤をつかって製版する方法が1960年代以降発達した。